



地震による火災 あなたは何かできますか — 意識から行動へ —

阪神・淡路大震災 — 神戸市内自治会役員の声 —

火の手が迫り、なす術もなくただ燃え広がる炎を眺めているだけでした。

しかし、このままではいけない。倒壊した家屋の下には、まだ埋まっている人もいます。何とかしなければ。そんな気持ちが町内の住民の中に広がり、「自分たちでこの火事を何とかしよう」とみんなの気持ちが一つになったようでした。

水道管も被害を受けて、消火栓をひねっても水は出ませんでした。誰かの声で近くに防火水槽があることに気づき、重いふたをこじ開けると水が入っていました。住民がそれぞれバケツなどを持って集まり、ロープの先にバケツ

をくりつけ、一人が中の水をすくい次々にバケツを渡していったのが、やがてバケツリレーとなったのでした。

最初は5～6人で始めた作業も最後は総勢200人ほどになりました。その中には既に自宅を焼け出された人や町会とは縁もゆかりもない人もいて力を貸してくれました。

こうした人と人の結びつきがあったからこそ、非常に初歩的なバケツリレーであの大火に立ち向かうことができたのだと思います。

(財団法人 日本消防協会「阪神・淡路大震災誌」災害現場からの声抜粋要約)



首都直下地震 東京では…



首都東京では、首都直下地震や東海地震などの発生が危惧されています。東京湾北部地震(M7.3)が発生した場合は、最大約9,700人の死者が発生する可能性があり、その4割以上が火災により亡くなると想定されています。

また、東京消防庁の算出による、「地震時における地域の延焼危険度」(右図)*では、ランクが高い地域ほど、燃え広がる危険度が高く、長時間燃え続ける可能性があります。

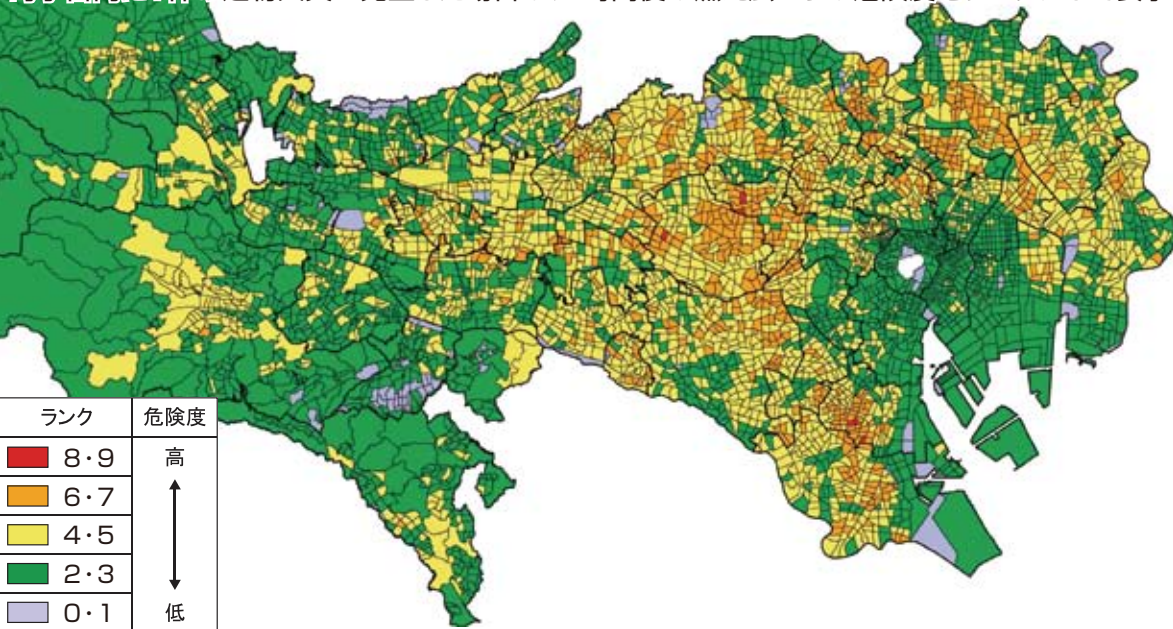
延焼する危険が高い理由としては、幅の広い道路が少ないことや

木造住宅などの密集地域が大きく広がっていることがあげられます。

まずは火災を起こさないことが大事ですが、もし火が出た場合は、住民のみなさんが協力して、火が小さいうちに素早

東京都の地震時における地域の延焼危険度(町丁目単位)

町丁目内に1件の建物火災が発生した場合の、6時間後の燃え広がりの危険度をランクにして表示



く初期消火を行うことで、被害を最小限にとどめることができます。そのためには、地域で行う防災訓練がとても大切です。

※東京都の地震時における地域別延焼危険度測定(第8回)平成24年3月<東京消防庁>より。詳しくは東京消防庁ホームページ「防災トピックス」に掲載しています。



地震その時、火

地震だ！ まず、身の安全

揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は、まず身の安全を最優先に行動してください。そして何よりもけがをしないことです。けがをすると、初期消火や救出救護、避難などといった次の行動に移ることが難しくなります。



揺れがおさまったら 火の元を確認

揺れがおさまったら、自分の身の回りの火の元を確認してください。使っていた火などは、始末してください。また、自宅を離れる場合は、ブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めてください。火を出さないことが大切です。



地域の防災

防災訓練



体験して身につける

実際に首都直下地震のような大規模な地震が発生した場合、同時多発する災害や倒壊建物などに道を阻まれるなど、災害の現場に消防隊がすぐに到着できるとは限りません。その時は、地域住民が協力して消火にあたらなければなりません。いざという時、行動できるように、一人でも多くの方が、防災訓練を体験し身につけておくことが、地震による被害の軽減につながります。

また、日頃から、通勤時や散歩の際などを利用して、自分のまちのどこに、どのような防災用具があるかを覚えておくこともとても大切です。

規模は小さくてもできる 防災訓練

学校や大きな広場で行う防災訓練の他に、みなさんが実際に住んでいる街区を訓練場所として「自分の近所で起こったら」をイメージしながら行うご近所同士の訓練も、いざという時に役立ちます。

防災訓練に参加するには

区市町村主催の防災訓練の他に、お住まいの地域の町会や自治会で行う訓練もあります。日程や場所はそれぞれにお問合せください。また防災館（本所・池袋・立川）でも防災体験ができます。

防災訓練に関するご相談は、最寄りの消防署へお問合せください。

災を防ぐために

火が出たら 落ち着いて初期消火

火災が発生したら、周りに大声で知らせるとともに、火が小さいうちに消火器などで初期消火してください。
もし、危ないと感じたら、無理をせず、周りの助けを求めてください。



自宅にも消火器を備えておきましょう!

初期消火は お隣同士で協力を

近隣で火災が発生したら、近隣同士で協力し合い火が大きくなるよう早期に初期消火をしてください。



力を高める!



✓ あなたのまちの身近な防災用具を確認しよう

自分の身近な地域に配置されている防災用具はどんなものが、どこにあるのか、防災訓練などを通して日頃から知っておくことが重要です。

消火器

街頭

地震などの災害に備えて、初期消火のため、道路などに設置されている消火器です。



スタンドパイプ

防災倉庫※

地域住民が初期消火に使う資器材です。消火栓等に差し込み、使用します。スムーズな吸水作業を行う事ができ手軽に放水が可能です。



可搬消防ポンプ

防災倉庫※

初期消火用のポンプで、防火水槽等から吸水し使用します。小型ながら1分間に130リットル以上の放水が可能です。都内に約3,400台設置されています。



防火水槽

公園等

消火用の水を溜めた水槽で、現在災害時に地域住民が容易に使えるよう、木造住宅密集地域を中心に、防火水槽の蓋を、軽量で開閉しやすい小蓋を備えた親子蓋に順次交換しています。



防災訓練には、消火訓練のほかに、避難訓練、救出訓練や応急救護訓練など様々な訓練があります。いずれも自分たちのまちを守るために必要な訓練ですので、積極的に参加しましょう。



防災館の
お問合せは

本所防災館 03-3621-0119
池袋防災館 03-3590-6565
立川防災館 042-521-1119

覚えておくといざという時に役に立ちます

応急手当は、
応急救護訓練や
救命講習で
学べます。



1.声をかける

肩をたたきながら声をかける。反応がなかったら、大声で助けを求め119番通報とAEDを依頼する。

2.呼吸の確認

胸とおなかの動きを見る。動きがなければ心肺蘇生を行う。

3.胸骨圧迫

AED到着まで胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返す。胸骨圧迫は、胸の真ん中を「より早く、強く」押す感じで。

4.AEDの活用

AEDの電源を入れ、電極パッドを体に貼りAEDの音声に従う。電気ショックの必要性などはAEDが判断します。

意識から行動へ！さあ防災訓練を！

倒れている人をみかけたら

応急手当の手順
東京消防庁 モバイル
ホームページの
「応急手当の手順」に
詳しい説明があります。





地震に備えて室内を安全に!

近年に発生した直下地震でけがをした原因を調べると、約30～50%の人が、家具類の転倒・落下・移動によるものでした。

高層階では、低層階に比べ揺れが大きくなる傾向があり、転倒・落下に加え家具類が大きく移動する危険があります。

室内の安全対策をしっかりとしましょう。



地震に対する家具類の対策

1 安全な居住空間をつくる

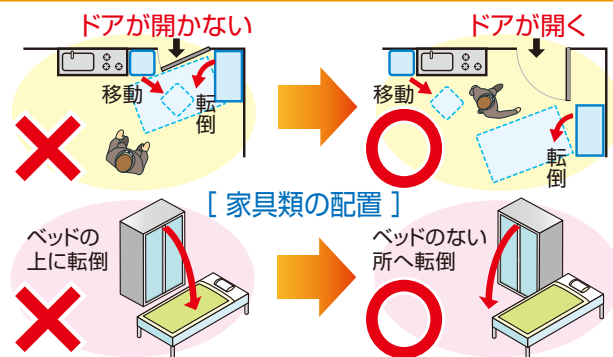
寝室などの居住空間には、できるだけ家具類を置かないようにしましょう。

2 家具類のレイアウトに注意

家具類が転倒・落下・移動しても、避難に支障がなくけがをしないような家具の配置をしましょう。

引き出しが飛び出し、ケガや避難の妨げになることがあるので、家具類を置く方向にも注意しましょう。

座る場所や寝る場所の付近では、背の高い家具類は置かないようにしましょう。

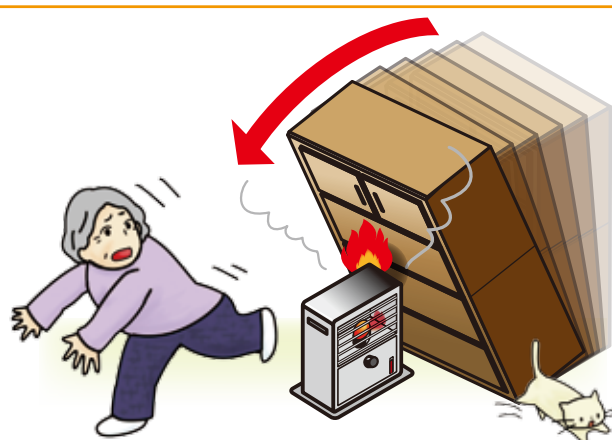


3 家具類の転倒・落下・移動防止

レイアウト上の対策をしたうえで適切な転倒・落下・移動防止対策を行ってください。特に就寝中の地震発生に備えて、寝室の家具は優先的に転倒防止対策を行ってください。重いものを下に収納することで、家具の重心が低くなり転倒しにくくなります。

また、地震の揺れにより家具などがコンロやストーブに転倒・落下して火災になった事例もあります。

火災を防ぐためにも、しっかりと対策してください。



詳しくは、東京消防庁ホームページ掲載の「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」をご覧ください。
※ハンドブックは、最寄の消防署にもございます。お問合せください。

Miniコラム

東京を守る海と空の消防隊



東京消防庁には、消防車や救急車の他にヘリコプターや消防艇もあります。

ヘリコプターは、昭和42年に全国の消防に先駆けて運用を開始しました。現在は6機のヘリコプターが消火、救助、救急搬送などを行い、東京の安全を守っています。



▲消防ヘリ「ひばり」

消防艇は、ヘリコプターよりも歴史が長く、昭和11年から運用を開始しました。現在9艇の消防艇が東京港や河川などにも出動し、消火、救助活動を行うほか、繫留されている船舶の立入検査なども行い、東京の安全を守っています。



▲消防艇「すみだ」

防火標語・救急標語募集 応募期間：8月30日(木)～11月15日(木)まで

それぞれ最優秀賞の方には、賞状と副賞として旅行券を差し上げます。応募資格など詳しいことは、東京消防庁広報課または最寄りの消防署にお問合せいただくか、東京消防庁ホームページをご覧ください。みなさまの応募をお待ちしております。

9月9日は救急の日

救急医療週間9月9日～9月15日

「あなたの勇気が、命を救う。」

救命講習で応急手当を学ぼう!

病人やけが人の救命効果を高めるためには、バイスタンダー(救急事故現場に居合わせた人)によって行われる応急手当が大切です。

もし、人の命にかかわる場面に遭遇したとき「わたしには関係ない」「何もしない」「何もできない」ではなく、自分ができる範囲のことを自信を持って行うことで、あなたにも救える命があるのです。

東京消防庁では、都民のみなさまや事業所を対象とした応急手当の講習会を行っています。講習修了者には、認定証が交付されます。詳しくは、お近くの消防署へお問合せください。



＜応急手当普及啓発用ポスター＞



今、ニッポンにはこの夢の力が必要だ。
2020年 オリンピック・パラリンピックを日本で!

ハサミを使わずに切り取れます。
この部分を切り取り、ご活用ください。

キリトリ

病院へ行く? 救急車を呼ぶ? 急な病気やけがで迷ったら 東京版 救急受診ガイド

病気やけがの緊急度や受診する科目をパソコンや携帯電話などで確認できる「東京版 救急受診ガイド」のサービスを東京消防庁ホームページで提供中

携帯電話からはこちら



スマートフォンからはこちら



※冊子版「東京版救急受診ガイド」でも確認できます。詳しくは最寄りの消防署まで

お楽しみ プレゼントコーナー

ご応募いただいた方の中から抽選で100名様に「東京消防庁オリジナルパンダナ」をプレゼント!!

＜応募方法＞ハガキに①住所②電話番号③氏名④年齢⑤性別⑥職業⑦広報とうきょう消防をご覧になった感想をご記入のうえ、下記の宛先までご応募ください。

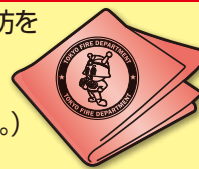
〒100-8119 (住所不要) 東京消防庁広報課「広報とうきょう消防」編集担当

＜締切＞平成24年9月14日(金)必着(応募はお1人様につき1枚とさせていただきます。)

＜当選発表＞プレゼントの発送をもって発表にかえさせていただきます。

「防火標語・救急標語募集」については、当コーナーへのプレゼント応募はがきに標語を記載し、ご応募いただくこともできます。

※応募の際にご記入いただきました個人情報につきましては、抽選・アンケート集計事務及び標語選考にのみ使用させていただきます。



イメージです。色・デザイン等、実際とは異なる場合があります。

東京消防

検索



東京消防庁ホームページ <http://www.tfd.metro.tokyo.jp>

東京消防庁の代表電話：03-3212-2111

